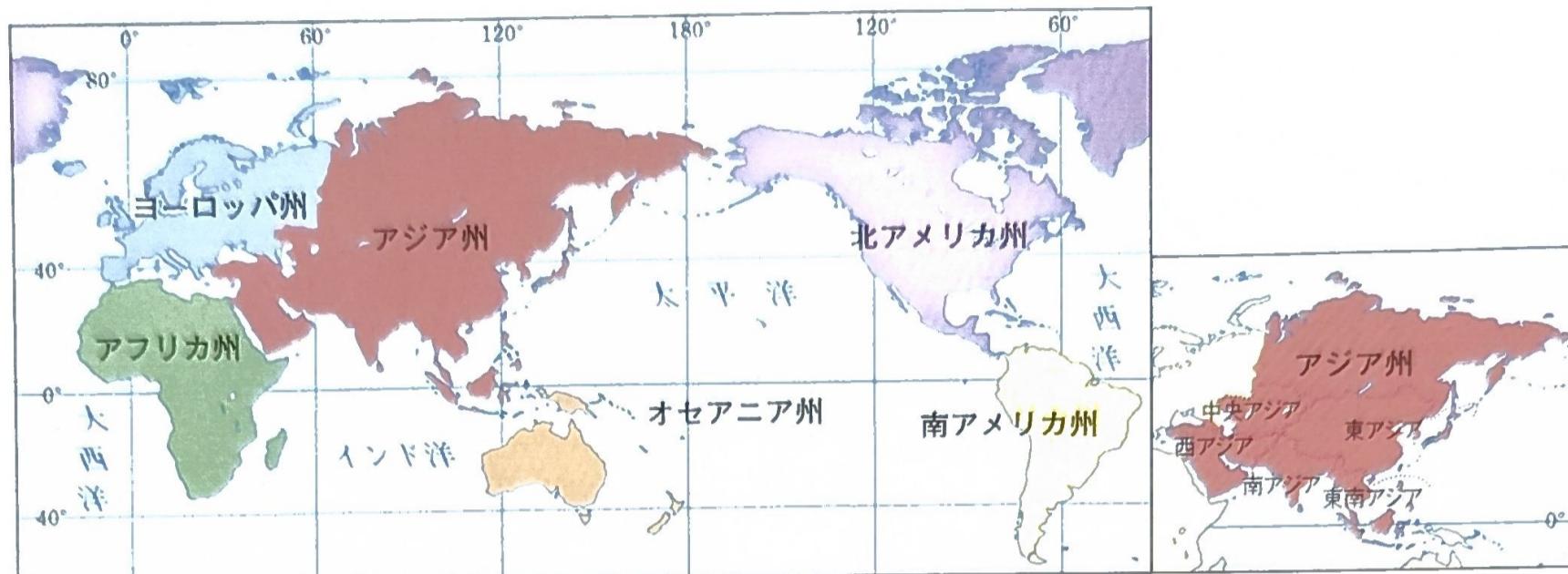


1節

地域区分とは何か



▲①州による地域区分(左)とアジア州の区分(右) 州による地域区分図のように、範囲が固定的にとらえられる地域は、個別地域や形式地域ともよばれる。

プラスα

等質地域と機能地域

地域区分によって示される地域は、等質地域と機能地域に分類することができる。等質地域とは、地域を構成する指標の質が均一とみなされる範囲であり、図②や図③のように気候や文化で区分された地域がこれに該当する。一方、機能地域とは、性質の異なる地域どうしが、なんらかの機能によって結びついた範囲のことである。例えば、生鮮食料品や日用品は地域のスーパー・マーケットを拠点とする多くの小さな商圈を構成し、家具などの買い物回り品はより大きな商圈をなす。このほか、都市圏や通勤圏なども機能地域の例である。

なお、これらの地域は単純に分かれるものではなく、地域と地域の境界付近では双方の地域の要素がまじり合っていたり(漸移帶)、ある地域のなかに別の要素が含まれていたりするのが一般的である。

地域区分の目的

地域区分とは、広大な世界を、共通性や関連性をもついくつかのまとまりある地域に分けてとらえることである。そうすることで、一つ一つの地域のもつ特色や他地域との結びつき、地域が抱える問題や将来の課題などがより理解しやすくなる。これは、人類の長大な歴史を時代区分してとらえることと似ている。人類の歴史も、適当な長さに区分しないと、時代の特徴や、豊かな現代社会をもたらした人類の歩み、未来への展望を理解することは難しい。

世界の諸地域は、図①のように州や大陸、大陸内的一部地域、島、国など、形式的な個別地域をもとに区分することができる。一方で地理的考察の対象とする場合には、図②や図③のように自然環境・政治・経済・文化などの指標にもとづいて区分することも有効である。

地域区分は固定されたものではなく、その指標や規模によって区分される地域の範囲は異なる。例えば、図①のアフリカ州は、図③では中近東文化をもつ北アフリカと、中南アフリカ文化をもつサハラ以南のアフリカに二分されている。一方、図②では、前者が二つの気候帯に、後者が三つの気候帯に細分されている。このように、指標の違いによって地域の範囲は変容するが、いくつかの指標を重ね合わせて大観してみて、ある一体性をもった範囲としてとらえることができる。

5

10

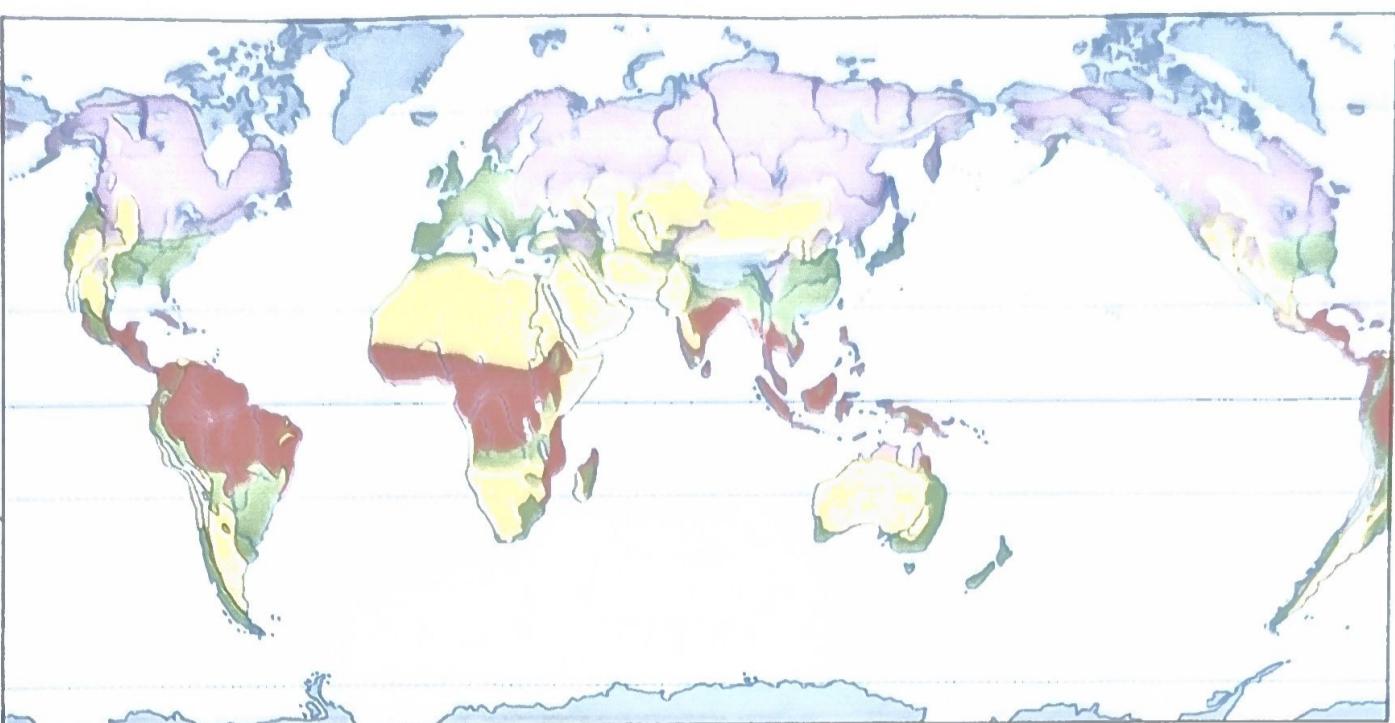
15

15

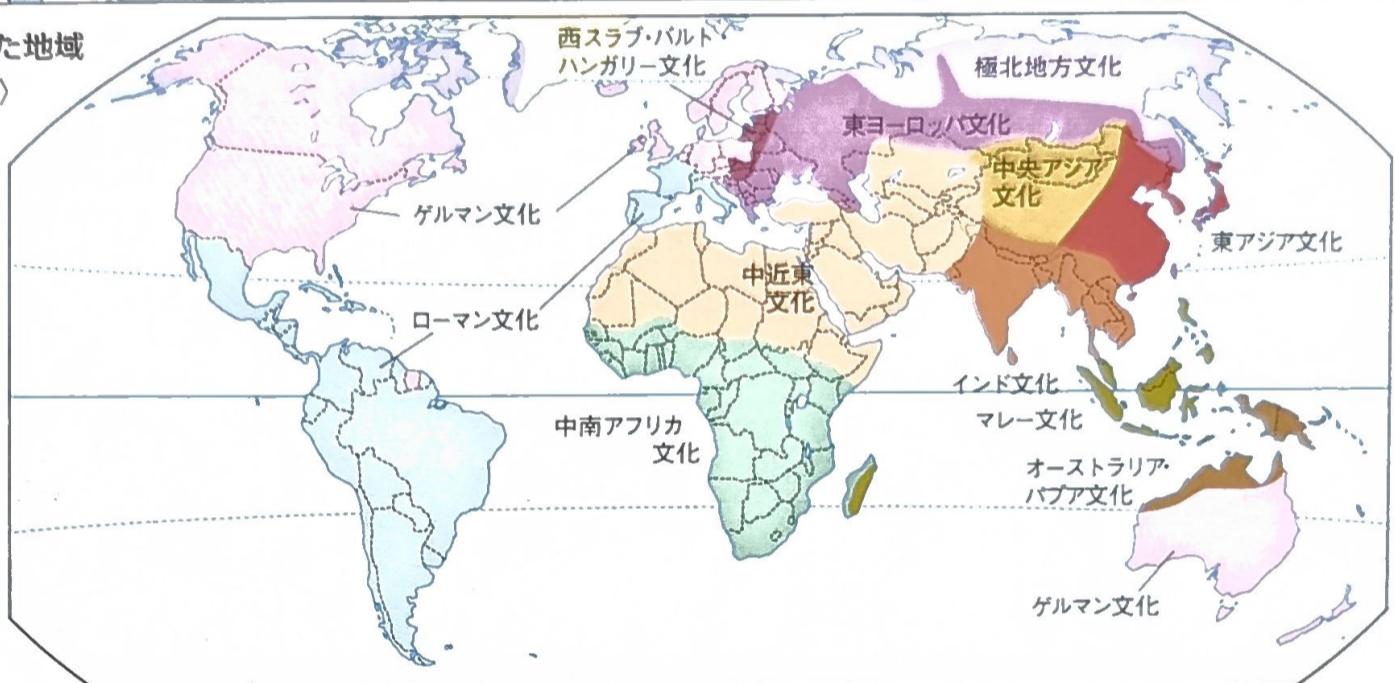
20

▶② 自然環境(気候)を指標とした地域区分(ケッペン原図、ガイガーほか修正、ほか)

■	熱 带
■	乾燥带
■	温 带
■	亞寒带
■	寒 带



▶③ 文化を指標とした地域区分(ザッパーによる)



地域区分の意義

「アジア(州)」や「ヨーロッパ(州)」のような形式的な個別地域をもとにした地域区分は、その範囲が

明確でわかりやすいため、地域を区分する際によく用いられる。その一方で、地域の考察には、文化や民族、自然環境などを指標とした地域区分が用いられることが多い。例えば南北アメリカは、大陸別には北アメリカと南アメリカに分けられるが、文化や民族を指標とした地域区分では、アングロサクソン系の移民を中心にして成立了アメリカ合衆国以北のアングロアメリカと、ラテン系の人々が入植の主体となったメキシコ以南のラテンアメリカに分けることができる。またアジアは、形式的には東・東南・南・西・中央アジアなどに細分されるが、自然環境を指標とした地域区分では、西アジアと中央アジアについて、「乾燥帯が広がる地域」としての共通性を見いだすことができる。このように、地域を区分する指標は一つではなく、さまざまな指標の地域区分から考察することによって、
15 地域的特色をより多面的に理解することができる。

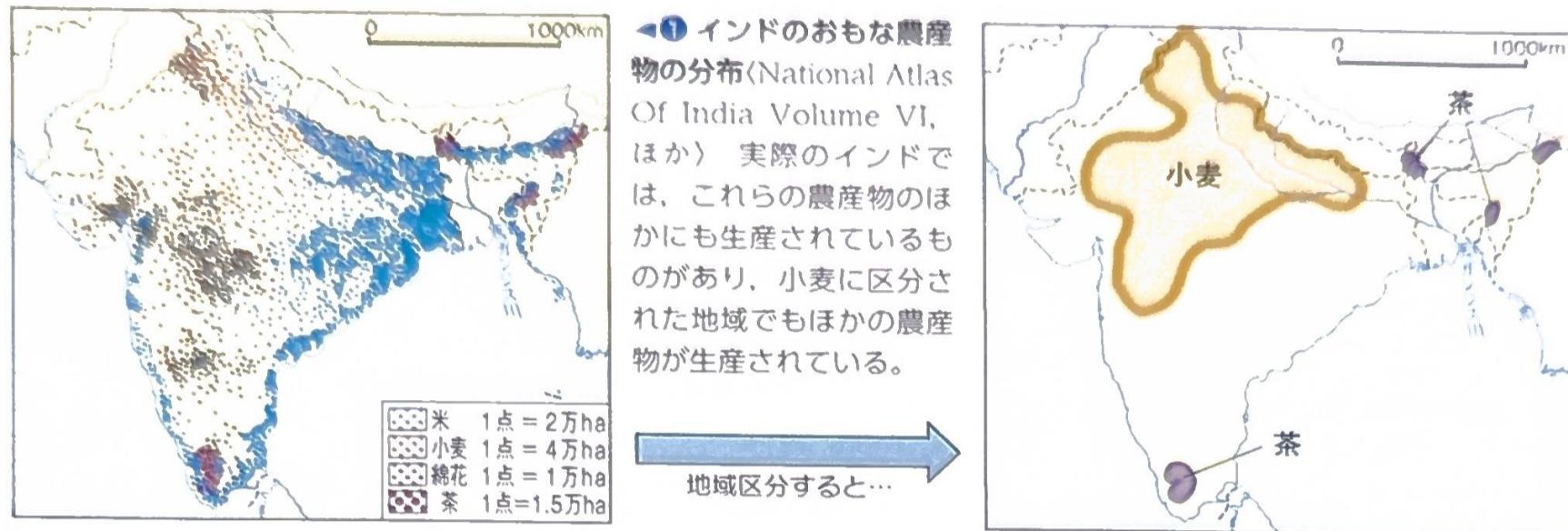
プラスα

ヨーロッパとアジアにまたがるロシア

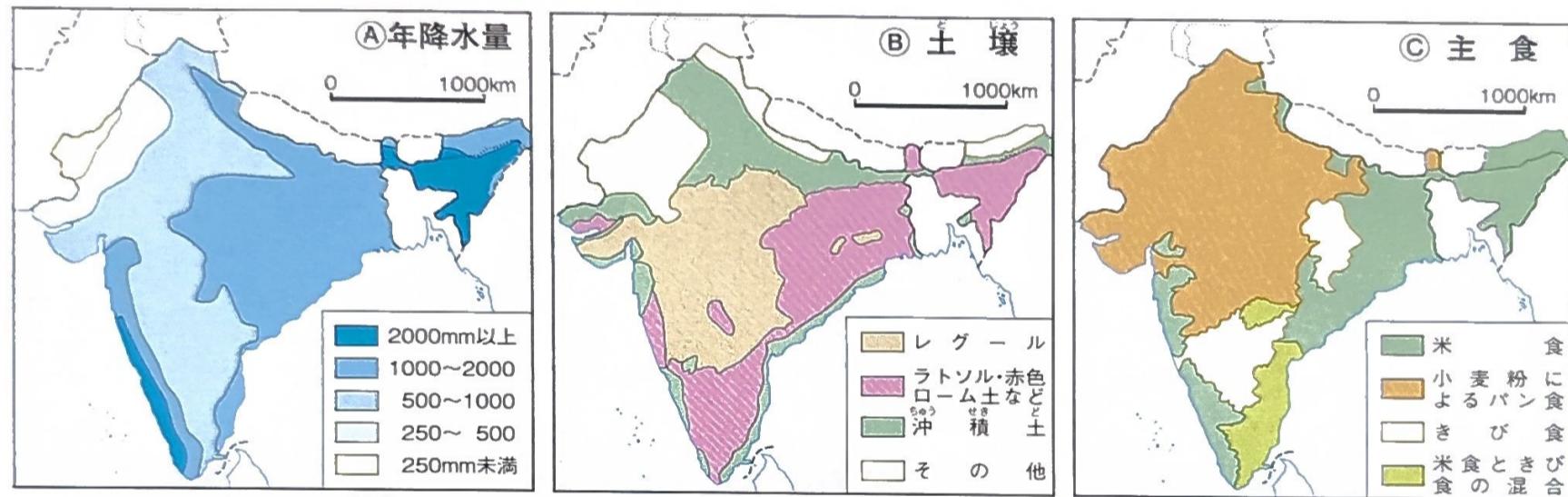
ウラル山脈以東のシベリアと、かつてのソ連から独立した中央アジアの国々は、もともとロシアからみて異民族の住む土地であった。ウラル山脈の西側を領土としていたかつてのロシアは、16世紀後半から18世紀にかけてシベリアへ、その後19世紀には中央アジアへと勢力を拡大してきた。こうして世界最大の国土面積をもつようになったロシアは、東西約1万kmにも及び、文化的にヨーロッパとアジアとが混在する多民族・多文化国家となった。

TRY

- 図①のドットマップをもとに、図②に米と綿花の栽培地域を書き入れ、インドの農産物の地域区分図を完成させよう。
- 図③のⒶにある年降水量 1000mm の等降水量線を、図②に書き入れてみよう。



▲② 農産物によるインドの地域区分



▲③ インドの年降水量・土壤・主食(Diercke Weltatlas 2008, ほか)

地域区分図をつくる・読み取る

図①のドットマップを見ると、それぞれの農産物が密集して分布する地域と、そうでない地域があることがわかる。小麦と茶のドットが密集している地域を囲むように線を引くと、図②のようになる。さらに米と綿花の栽培地域を図に書き加えれば、地域区分図が完成する。この図をよく見ると、主要農産物である米と小麦は、ガンジス川中流域で重なり合っており、このあたりが中間帯(漸移帯)となっている。

次に、図③のⒶ～Ⓒと、作業して完成させた図②を見比べてみよう。米の分布は、年降水量 1000mm 以上で、水の得やすい沖積土が広がる地域とほぼ一致している。綿花は年降水量が比較的少なく、肥沃なレグールのみられる地域に分布する。

茶は年降水量がとくに多い地域、小麦は年降水量が 1000mm 未満の地域を中心に栽培されている。降水量の多少は、夏のモンスーンや地形とも関係が深い。ヒマラヤ山脈やインド半島の海岸沿いにある東・西ガーツ山脈と、夏の南西モンスーンの風向きを図③のⒶに書き込むと、その関係を説明することができる。

ガンジス川中流域にみられる米と小麦の分布境界は、ユーラシアにおける稻作文化圏と麦作文化圏の中間帯をなしている。この地帯では、米食と麦食の両方がみられ、小麦は、水とこねて薄く円形に広げて焼くチャパティや、こねて発酵させてから窯で焼くナンとして食べられている。

1節 地域の考察方法

もとにした地域区分	取りあげる地域	考察方法
形式的な地域	東アジア～中国・韓国～	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
形式的な地域	東南アジア	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
形式的な地域	南アジア	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
自然環境（乾燥帯が広がる地域）	西アジアと中央アジア	[3] 類似的な性格の二つの地域を比較して考察
文化（中近東文化と中南アフリカ文化）	北アフリカとサハラ以南のアフリカ	[3] 対照的な性格の二つの地域を比較して考察
形式的な地域	ヨーロッパ	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
自然環境（亜寒帯が広がる国）	ロシア	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
文化（ゲルマン文化）	アングロアメリカ	[1] 多様な事象を項目ごとに考察
文化（ローマン文化）	ラテンアメリカ	[2] 特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察
形式的な地域	オセアニア	[2] 特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察

▲①本書で取り上げる国・地域ともとにした地域区分・考察方法

**本書の
考察方法**

世界のさまざまな地域の特徴を学習するために、本書では、次の三つの方法で考察する。

[1]多様な事象を項目ごとに考察する方法 地域を構成するさまざまな事象を、産業・文化・民族・歴史などの項目ごとに取りあげて整理し、事象全体を通して地域的特色を見いだす。本書では形式的な地域区分から東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパを、自然環境による地域区分からロシアを、文化による地域区分からアングロアメリカをこの方法で考察する。

[2]特徴ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する方法

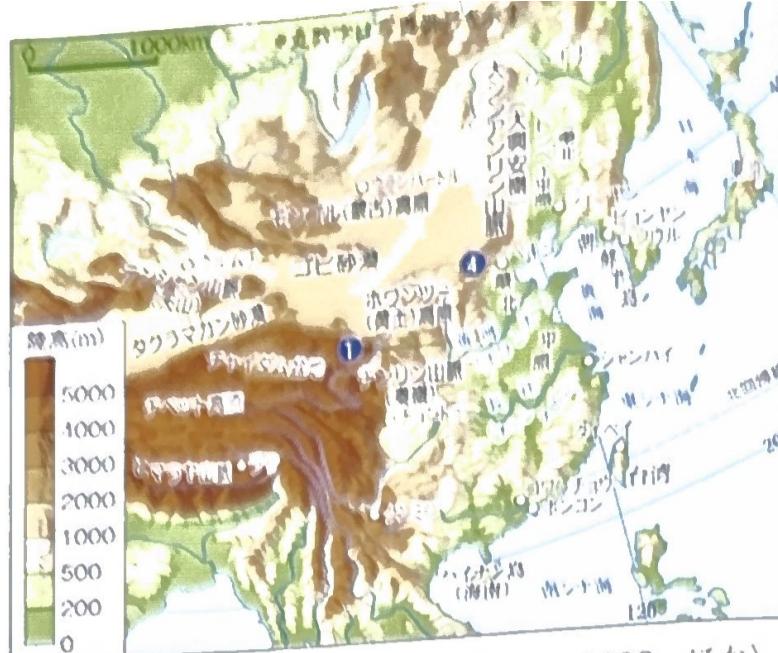
考察しようとする地域がもつ特徴的な事象と、それを支える産業・文化・民族・歴史などの事象とを関連づけて地域的特色を見いだす。本書では、形式的な地域区分であるオセアニアと、文化的な指標による地域区分であるラテンアメリカをこの方法で考察する。

[3]対照的または類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法 対照的もしくは類似的な性格の地域どうしを、産業・文化・民族・歴史などの事象について意識的に比較・対照して、相互の相違点や共通点に着目しながら、それぞれの地域の地域的特色を見いだす。本書では、文化的な指標による地域区分から北アフリカとサハラ以南のアフリカを対照的な性格の二つの地域として、自然環境による地域区分から西アジアと中央アジアを類似的な性格の二つの地域として、それぞれ比較・対照して考察する。

プラスα

系統地理学と地誌学

地理学には、系統地理学と地誌学という二つのアプローチがある。系統地理学は、世界の地理を研究テーマ別(項目別)に体系化しようとするもので、地形・気候・農業・工業・人口・都市といったテーマごとに、諸地域にみられる特徴を比較・考察し、その一般法則を見いだす。それに対して地誌学は、世界や日本の諸地域を研究対象に、地域ごとの地形・気候・農業・工業・人口・都市などの特徴を他地域との比較の上で検討し、個々の地域性を把握する。これら二つのアプローチは、相互に補完的な関係にあり、この両者から地理学が構成される。



▲② 東アジアの地形(Diercke Weltatlas 2008. ほか)

◀① ホワンツー(黄土)高原を流れる黄河(中国・シャンシー(山西)省)

●地域の考察方法● 東アジアは、第二次世界大戦後に急速に工業化が進んだ地域である。とくに近年は、中国のめざましい経済発展が世界経済に大きな影響を与えるようになっている。この節では、中国・韓国を中心に、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、考察していこう。

●変化に富んだ地形と気候

ユーラシア大陸の東部に位置する東アジアの地形は西高東低で、西側にはゴビ砂漠やタクラマカン砂漠、チベット高原やテンシャン(天山)山脈が広がっている。一方、海に面した東側にはトンペイ(東北)平原や華北平原など低地が多く、黄河や長江という大河をはじめ、多くの河川が流れている。また、日本列島や台湾は新期造山帯に属し、環太平洋造山帯の一部をなしている。

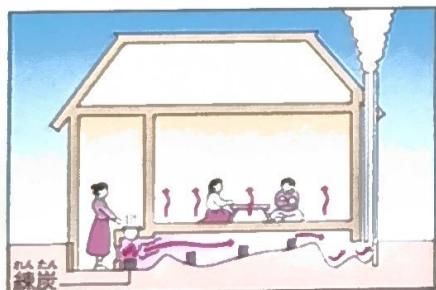
中国の東南部と朝鮮半島南部、日本の大部分は温暖湿润気候区に属し、四季が明瞭である。季節風(モンスーン)の影響を受けるため、夏の降水量が多い。華北平原北部と中国の東北地方、朝鮮半島の北部、日本の北海道は亜寒帯(冷帶)に属し、冬の寒さが厳しい。そのため、朝鮮半島では、床下に炊事の煙または温水などを通して、床から部屋全体を温めるオンドルとよばれる暖房のしくみが古来より発達した。一方で、中国最南のハイナン(海南)島は熱帯に属し、やしやバナナなど熱帯の農作物栽培がさかんである。

モンゴルから中国の西北部にかけては、年降水量が500mm以下の乾燥した気候で広大な砂漠が広がり、その周辺のステップでは遊牧が行われている。また、降水量が少なく標高が高いチベット高原は、ツンドラ気候になっている。

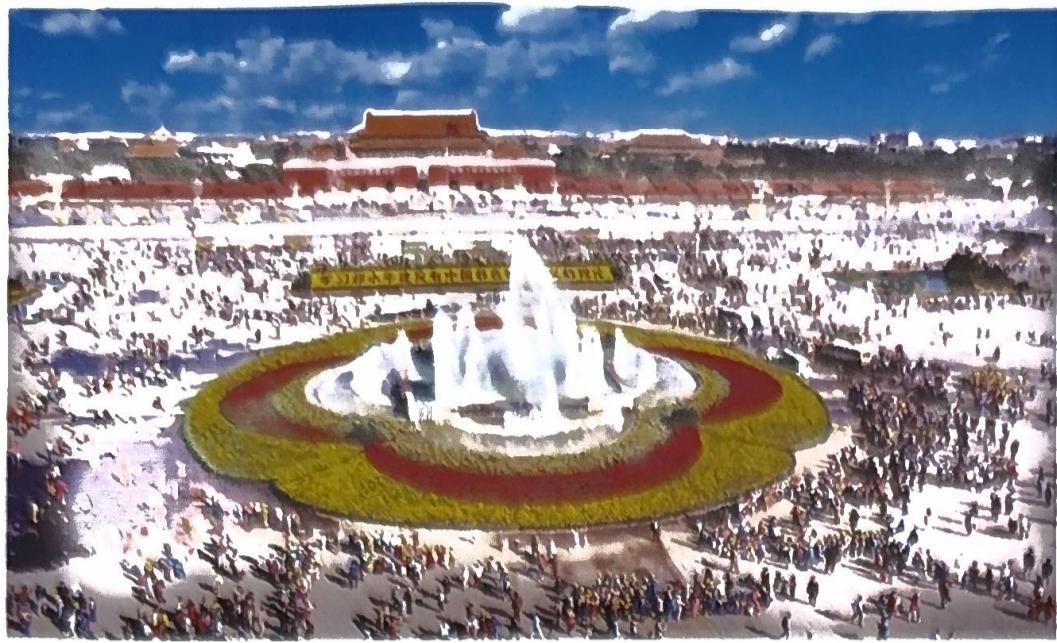
プラスα

オンドルとカン

朝鮮半島や中国の東北地方などでは、伝統的な床下暖房装置がみられる。朝鮮半島でみられるオンドル(温突)は、もともとは台所での炊事の煙を床下全体に通して部屋を温めるものであった。近年は、煙のかわりに温水パイプや電気ヒーターをめぐらしたもののが主流になっている。中国の東北地方でみられるカン(炕)は、床の一部を高くしてその部分に煙を通し、寝床を温めるものである。オンドルとカンは類似しているが、温める範囲に違いがある。



▲③ 伝統的なオンドル(模式図)



▲④ 天安門広場(中国、ペキン(北京)) 1949年の
中華人民共和国建国式典など数多くの歴史的行事や事
件の舞台となってきた。

►⑤ 中国の歩み

年	事 増
1937	日中戦争起ころ
1949	中華人民共和国成立
1953	5か年計画始まる(計画経済)
1954	中華人民共和国憲法制定
1958	人民公社の始まり(集団化による大躍進運動)
1960	ソ連と対立、ソ連技術援助打ち切り (大躍進運動の失敗で集団化を綱和)
1966	文化大革命(~76)
1971	台湾にかわって国連代表権を獲得
1972	米共同声明、日中國交正常化
1978	毛沢東死去
1978	経済改革・対外開放政策の開始を決定
1983	集団農業の解体
1989	天安門事件(社会主義崩壊に対する政治的歟止めをかけ、経済開放は促進)
1993	憲法改正で社会主義市場経済をめざす
1997	ホンコン返還(イギリスより)
1999	マカオ返還(ポルトガルより)
2001	WTO 加盟
2008	ペキンオリンピック開催
2010	経済の規模を表す国内総生産(GDP) で日本を上まわり、世界第2位となる

1 中国の歩みと巨大な人口

日本に影響を 与えた文化

中国では黄河流域と長江流域で古代文明がおこって以来、周辺の民族の侵略や支配をたびたび受けながらも、漢民族を中心とする中国文化が脈々と継承されてきた。青銅器や鉄器の製造、はしの使用、稻作、漢字、仏教などの文物、茶やみかんをはじめとしたさまざまな農産物など、日本は中国から多くの文化を学んできた。

社会主義経済 から市場経済へ

第二次世界大戦後、国民党との激しい内戦を経て、毛沢東の率いる共产党が1949年に中華人民共和国を建国した。それ以来、中国は社会主義の道を歩み、政府が経済全般を統制する計画経済のしくみを導入した。農村では、集団で農業や工場を営むとともに、行政、教育の機能をもつ人民公社とよばれる組織がつくられた。しかし、計画経済の下で生産意欲の低下や生活水準の停滞に見舞われたため、1970年代末から市場経済を取り入れ、外国からの投資も受け入れる経済改革・対外開放政策に転じた。経済に対する政府の介入を減らし、国有企业の経営の自主性を高めたり、民営化を進めたりした。また、集団農業をやめて個々の農家が自由に経営できるようにしたことで農業の生産性が大きく向上した。農村では郷鎮企業がさかんに設立され、生産性の向上によって余剰となった労働力を吸収して成長した。

2001年にWTOに加盟して国内の市場を大きく開放したことで、外国企業がさらに中国に進出した。2010年には、GDPでアメリカ合衆国につぐ世界第2位となつた。
(→ p.140)

リード

多くの人口と民族を抱える中國の課題と取り組みをみていく。

リンク→

発展途上国の人口増加の要因(p.172)

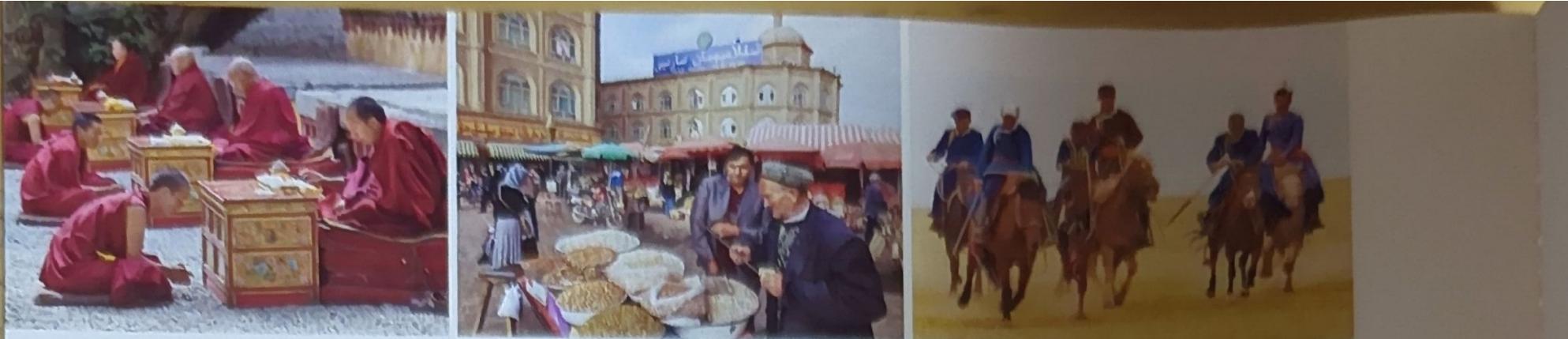
用語解説

1 計画経済 政府が製品の生産計画を立案し、それにもとづいて企業や農民に生産を指令する経済のしくみ。製品も、政府の指令によって分配される。

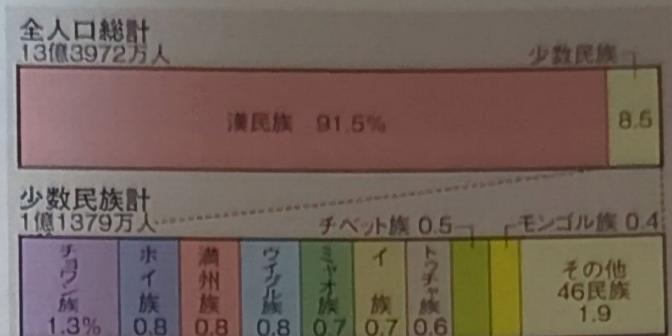
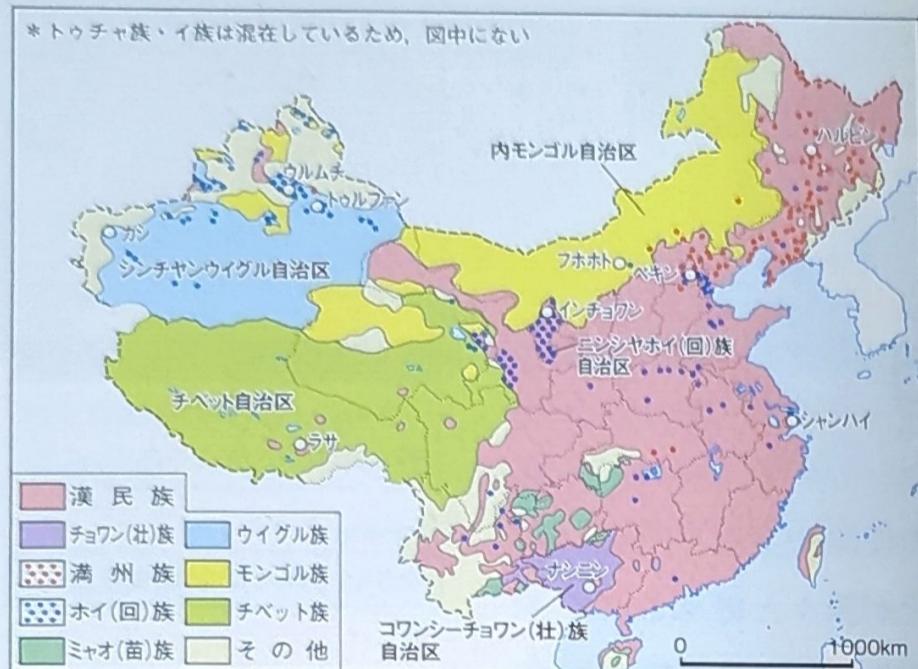
2 人民公社 行政や教育機能をもった農村組織。集団で農業を営むとともに、工場の運営を行う。1958年から80年代半ばまでは中国のほとんどの農民が人民公社に属していた。

3 市場経済 企業や農民がそれぞれの判断で何をどれだけつくるかを決めるしくみ。製品の販売先は、それぞれの判断にもとづく。サービス、労働力、土地、企業なども売買の対象になる。

4 郷鎮企業 農村の郷(日本の町に相当)や村が設立した工場や商店、および農民が自分でおこした工場や商店などをさす。農民たちに新たな就業先を提供することで大きく発展した。最近では都市に本社を移す郷鎮企業も出てきており、農村との結びつきは薄れつつある。



▲❶ 説法を受けるチベット族の修士(ラサ(拉薩)、2012年撮影) ▲❷ アラビア文字が見られる市場(カシ(喀什)、2011年撮影) ▲❸ 民族衣装を着て馬に乗るモンゴル族の人々(内モンゴル(内蒙古)自治区)



▲❹ 中国の民族構成(2010年)(中国統計年鑑2013) **読図** 図❸の分布と比べて、特徴を読み取ろう。

▲❺ 中国の民族分布(中華人民共和国地図集2006年版) **読図** 自治区が設けられているのはどのような地域か、なぜ設けられているのか考えよう。

	こんにちは	さようなら
北京語	ニイハオ 你好	ツアイジエン 再见
上海語	ノンホー 侬好	ゼーウエ 再会
廣東語 かんとん	ネイホウ 你好	ツォイギン 再見

▲❻ 言葉の違い(世界のことば小辞典、ほか)

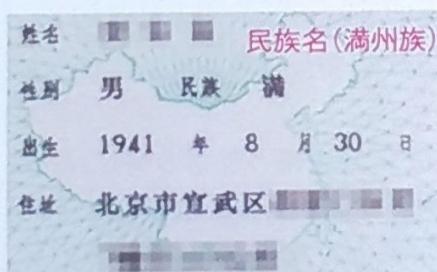
❶ チベットを中心に発展した仏教の一派で、モンゴル族の間にも広まり、清朝の時代には皇帝から保護された。

多民族からなる中国

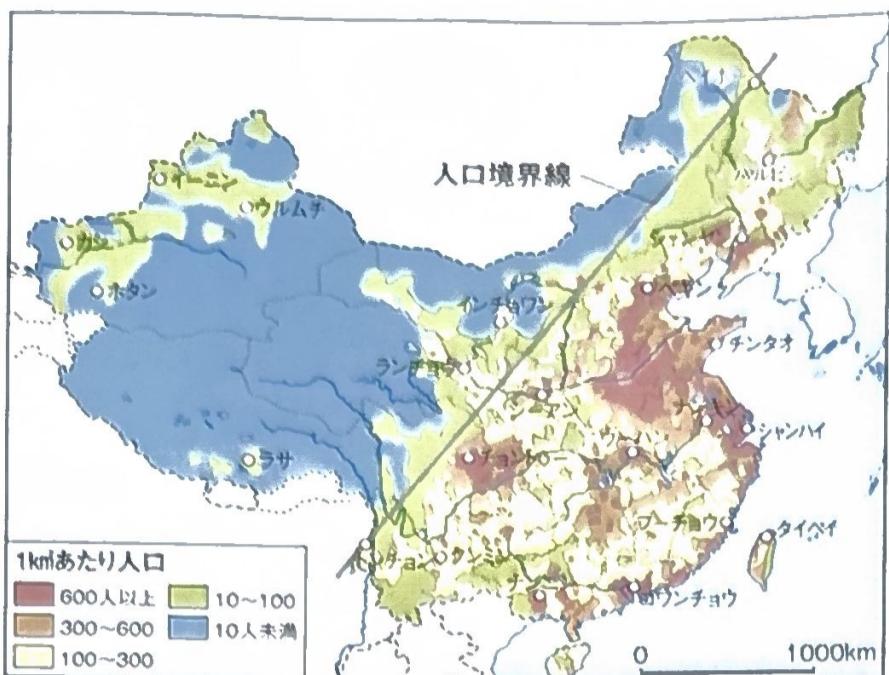
中国の人口の約9割は漢民族が占めているが、それ以外に55の少数民族が住んでいる。また同じ漢民族でも、書き言葉は共通しているが話し言葉は南北で大きく異なり、とくに南部では方言が細かく分かれている。方言どうしで話すと意思の疎通をはかることが難しい。そこで北京語をもとにした標準語が定められ、学校教育を通じて普及が進められている。

少数民族にはチワン(壮)族、満州族、イ族、ホイ(回)族、ウイグル族などがあり、それぞれ独自の言語、文化、生活様式をもっている。ホイ族やウイグル族にはムスリムが多く、モンゴル族やチベット族にはチベット仏教を信仰する人が多い。中国の国民が携行する身分証明書には生年月日のほか、どの民族に属するかも記載されている。少数民族の多い地域には省と同格の民族自治区がおかれ、首長や行政幹部の多くが少数民族から選ばれている。

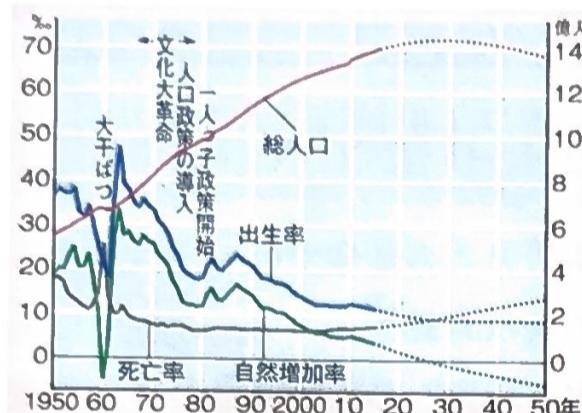
中国政府は、国防や開拓のために各地への漢民族の入植を進めたが、漢民族の増加によって民族間の摩擦が起きている。また、少数民族の文化を尊重して、それぞれの民族言語による教育を行ってきたが、国内経済の統合が進み中国語能力の重要度が高まってきたため、少数民族の就職が困難になるという問題も起きている。



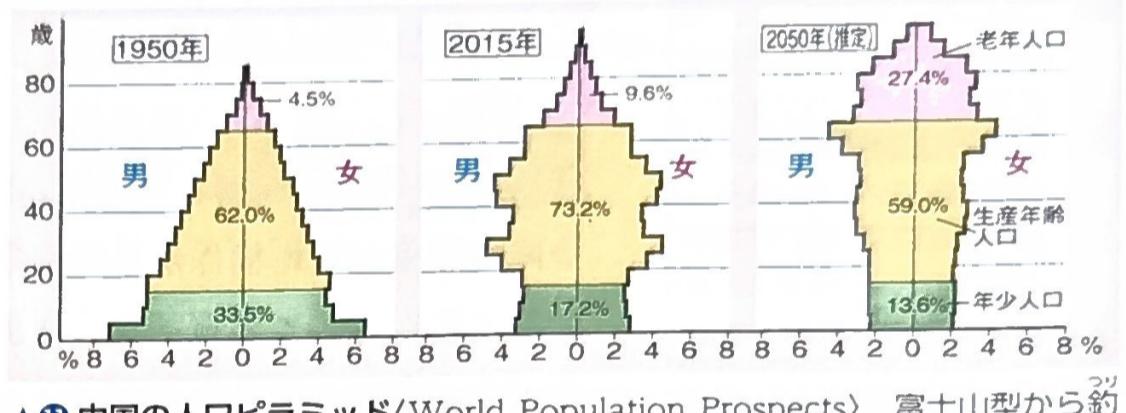
▲❼ 少数民族の身分証明書 民族欄に満州族を表す「滿」の文字が記載されている。少数民族は、身分証明書を提示することでさまざまな優遇措置を受けることができる。



▲⑧ 中国の人口密度(2005年) (2005年北京市人口抽査調査資料、ほか) 人口境界線の東側に約95%の人口が集中している。



▲⑨ 中国の人口の変化 (World Population Prospects, ほか) 読図 一人っ子政策によって出生率はどのように変化したのだろうか。



▲⑩ 中国の人口ピラミッド (World Population Prospects) 富士山型から釣鐘型を経て、つぼ型へと変化している。 読図 1950年と2050年の人口ピラミッドを比べると、年少人口と老人人口はどのように変化しているだろうか。

世界最大の人口

中国の人口は現在、14億をこえ、世界人口のおよそ5分の1を占めている。中華人民共和国が成立した1949年には5.5億だった人口が、医療の普及による死亡率の低下などから、1970年代末には10億近くにまで増え、食料生産を増やしても人口増加率が高いため、国民の生活水準がなかなか向上しなかった。危機感をおぼえた中国政府は1970年代末から一組の夫婦には子供を一人までしか認めない一人っ子政策を採用し、人口の急増に歯止めをかけた。このような政策を30年以上も続けた結果、人口増加率は徐々に低下し、21世紀前半のうちに人口が減少に転じる見込みとなっている。^{▶⑪}

その一方で、一人っ子政策による出生数の減少によって人口の高齢化が急速に進行し始めている。2020年代には老人人口が14%以上を占める高齢社会になり、さらに2050年には21%以上を占める超高齢社会になると予想されている。そのため、第2子の出産を認めるなど、人口抑制政策は徐々に緩和されている。^{▶⑫}



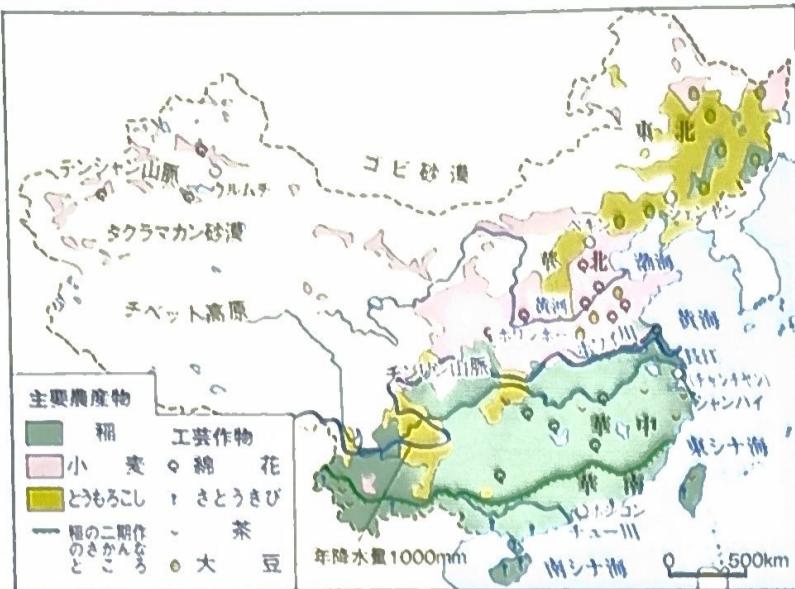
▲⑪ 一人っ子政策を奨励する看板(北京)

用語解説

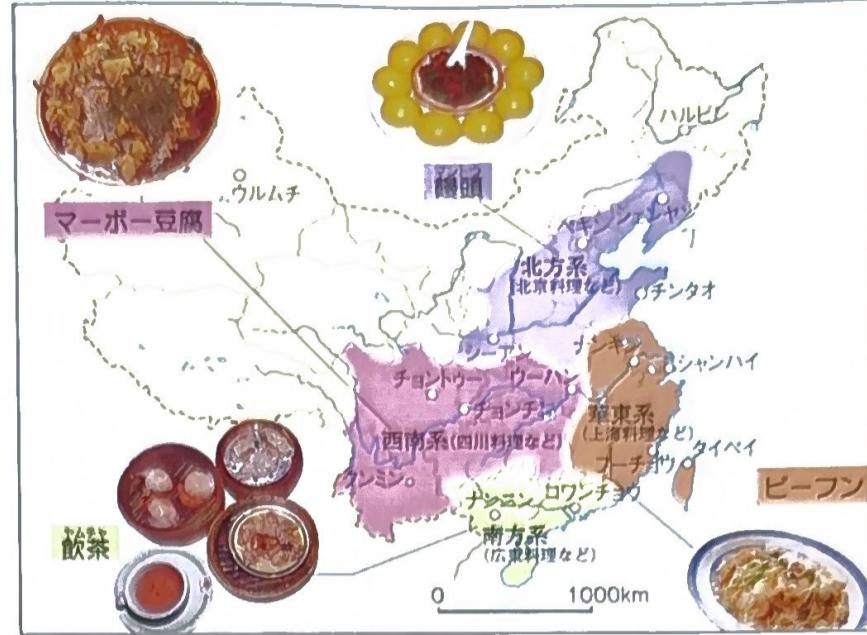
1 一人っ子政策 一組の夫婦が一人だけ子供を生むよう徹底するため、出産はすべて許可を得ることになっており、違反すると罰金を科された。少子化が進んだため、現在では一人っ子政策は廃止された。

チェック

- 1) 中国に外国企業が進出するようになった理由を説明しよう。
- 2) 中国の人口政策によって生じる可能性のある社会問題を説明しよう。



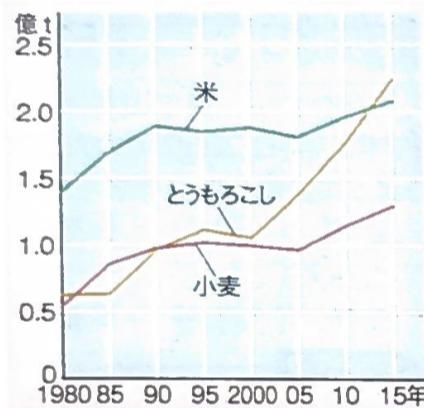
▲① 中国の農業(中国地図集 2004, ほか) 読図 稲はどのような地域で栽培されているのだろうか。



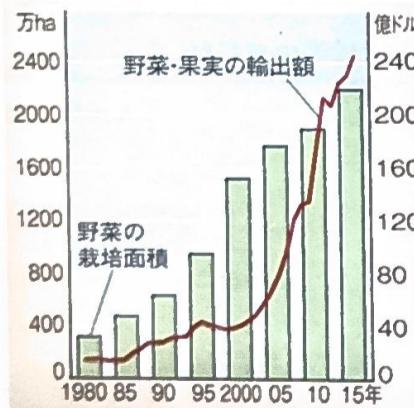
▲② 中国のおもな料理(木村春子) 読図 各地のおもな料理の材料や特徴を、図①と関連させて考えてみよう。

リード

図①からは中国の農業の分布が自然環境とのかかわりが深いことがわかる。中国の農業の変化と課題をみていく。



▲③ 中国の米・小麦・とうもろこしの生産量の推移(中国統計年鑑 2017)



▲④ 野菜の生産と輸出(中国統計年鑑 2017, ほか)

チェック

稻や小麦はどのような地域で栽培されているのだろうか。

2 中国の食生活と農業の変化

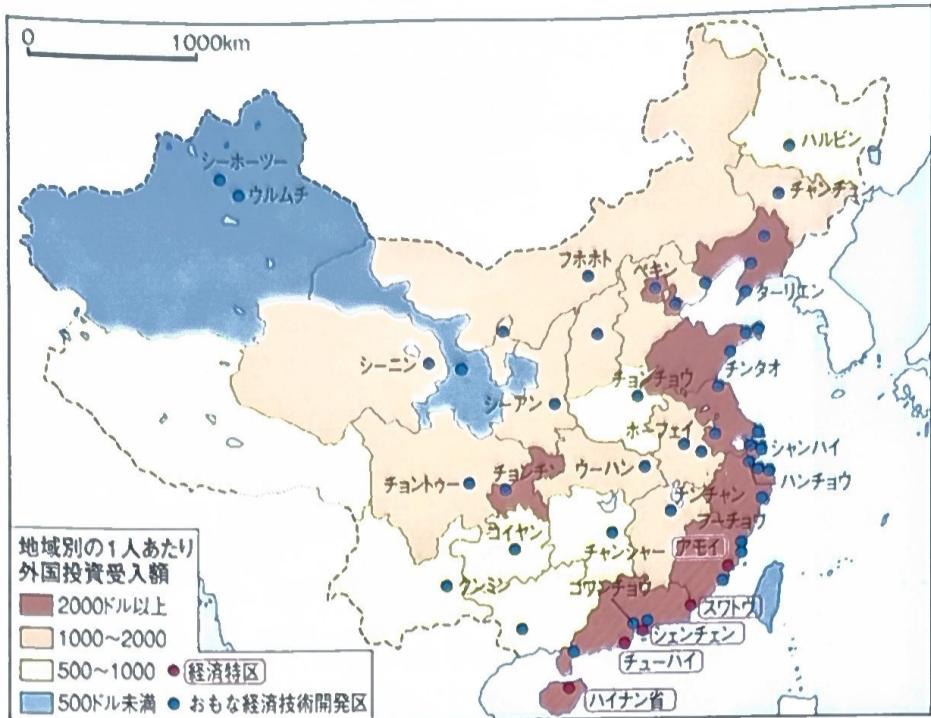
さまざまな食生活と農業

中国的農業は、ホワイ川(淮河)とチンリン(秦嶺)山脈を結ぶ線を境にして、南の地域では豊富な降水を生かした稲作がさかんである。この地域では、主食は米飯で、米粉からつくるビーフンもよく食べられる。^{▶②}一方、北部では畑作が中心であり、華北平原では小麦栽培がさかんで、ここでは小麦粉を使った饅頭や麺類、餃子がよく食べられている。東北地方では乾燥に強いとうもろこしの栽培がさかんだが、稲作技術の向上によりジャポニカ種の米も多く生産されるようになった。

農業の変化と課題

1980年代前半に人民公社が解体されると、各地域の特徴を生かした商品作物が栽培され中国全土や海外にまで出荷されるようになった。例えば、交通の要衝にあるシャントン(山東)省では大規模な野菜生産が行われ、中国国内だけでなく日本にも輸出されている。^{▶③}また、内モンゴル(内蒙古)自治区では広大な草原を利用した酪農がさかんで、牛乳が中国各地に出荷されている。2000年代に入ると穀物の生産が振興され、それまで自由化政策によって減少していた穀物の生産は増加し、米や小麦、とうもろこしはほぼ国内で自給できるようになった。^{▶④}とくに、食生活の変化によって国内の畜産物需要が高まり、飼料用のとうもろこしの生産が増加している。とうもろこしと同様に飼料用となる大豆は、アメリカ合衆国やブラジルなどからの輸入が急増している。^{▶⑤}

都市化が進み、水資源の汚染や枯渇、化学肥料の大量投与による土壤の劣化などの問題が表面化している。また、営利を追求するあまり、食の安全が疎かになっていることも問題となっている。



▲⑤ 経済特区・経済技術開発区と外国投資の受け入れ(2016年)(中国統計年鑑2017、ほか) 読図 外国からの投資額が多い地域を読み取ろう。



▲⑥ パソコン工場(チョントウ(成都), 2012年撮影) 近年は、パソコンやスマートフォンなどの高性能の電子機器の生産も増えている。

3 中国の工業化と巨大市場

世界の工場

中華人民共和国の成立以来、中国では多数の国有企业が設立され、豊富な鉱産資源を生かして鉄鋼、化学などの重化学工業が発展した。とくに「満州国」の時代に日本(1932~45年)が建設した炭鉱や製鉄所などが残っていた東北地方には多数の国有企业がつくられ、中国の重化学工業の中心になった。

1970年代末に对外開放政策が始まったのち、華中・華南の沿海部に経済特区や経済技術開発区が設けられた。^①これらの地域では外国企業に対する税が低く抑えられたため、外国企業は中国の安価で豊富な労働力と国内市場の成長の可能性にひかれて積極的に投資した。^②外国企業の進出と中国企业の成長により、中国は自動車、^③パソコン、テレビ・エアコン・冷蔵庫などの家電、^④玩具・衣服など、多くの工業製品で世界最大の生産国となった。^⑤今日では、大量の工業製品を輸出するようになり世界の工場とよばれている。ビルや道路の建設に使用されるセメントの生産量では世界の約6割、^(2013年)鉄鋼の生産量では約5割を占めるなど、^(2013年)国内市場向けの工業の成長も著しい。また、コワントン(廣東)省などの東南部には、パソコンや家電などの特定の産業に従事する中小企業が一つの町に集まつた産業集積地(^{→ p.139})が数多く生まれ、安価な製品を大量に送り出している。

アメリカ合衆国やヨーロッパなどでは、拡大する中国からの輸入が域内の産業に与える悪影響を抑えるため貿易を制限する動きが出るなど、中国の工業の躍進は貿易摩擦をもたらすまでになっている。^(→ p.167)

リード

図⑤やp.238図②からは沿岸部と内陸部の地域差を読み取ることができる。このような地域差は、なぜ生じるのだろうか。

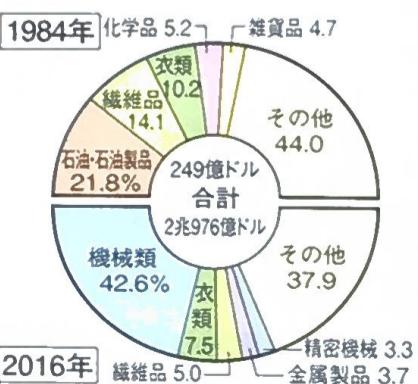
リンク→

BRICSの工業化と後発工業国(p.143)

用語解説

① 経済特区 中国がまだ計画経済中心であった1979年に、外国企業に自由な経営活動を許す市場経済の実験場として設けられた。現在では、周辺の地域と一体化した工業都市として発展を続けている。

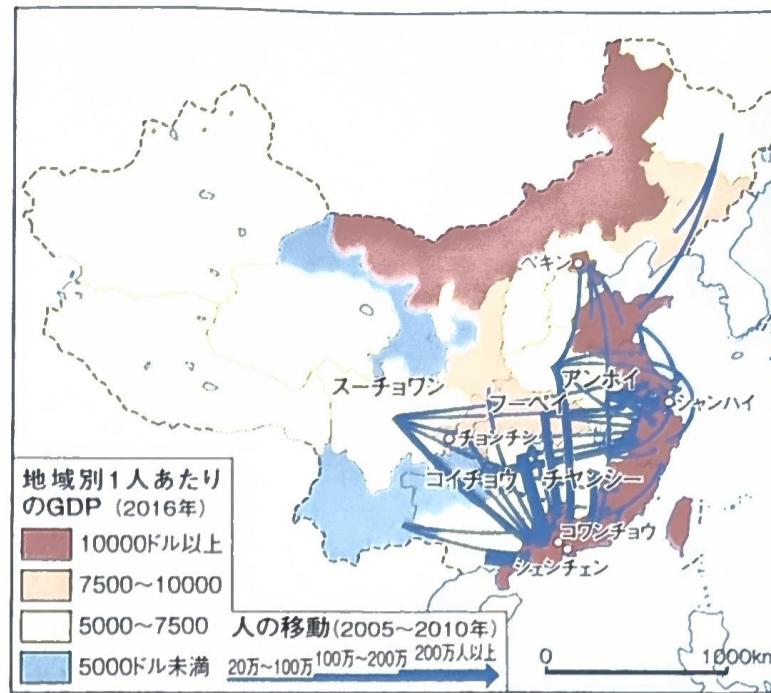
② 経済技術開発区 輸出企業と先端技術を開発する企業の誘致を目的とした工業団地。外国企業だけでなく、国内企業にも開放されている。



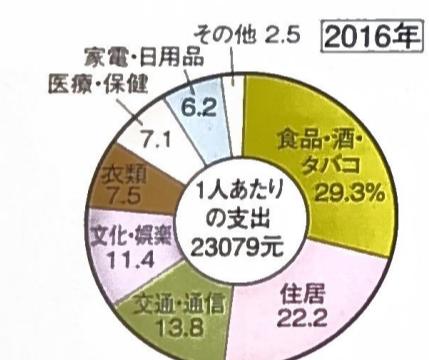
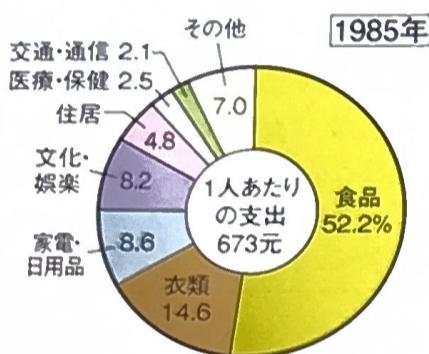
▲⑦ 中国の輸出品の変化(UN Comtrade, ほか)



▲① 深刻な大気汚染と交通渋滞(ペキン(北京), 2014年撮影)



▲② 地域別1人あたりのGDPと人の移動(中国統計年鑑2017, ほか)



▲③ 都市家庭の消費支出の変化
(中国統計年鑑2017, ほか)

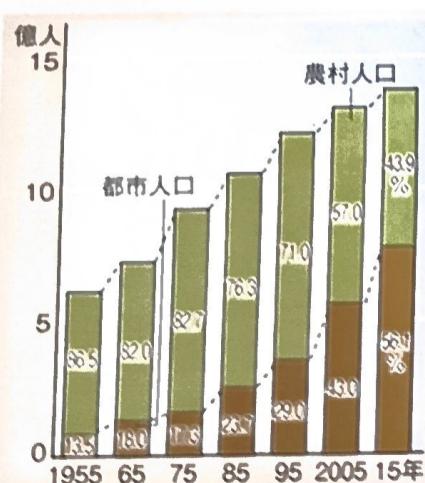
経済発展と生活の変化

経済発展によって中国の人々の生活水準は大きく向上してきた。^③ 1970年代末には自転車や白黒テレビが庶民のあこがれの品だったのが、今では世界最大の自動車市場となり、携帯電話の加入者数は人口の8割をこえている。

都市化も急速に進み、^④ 1970年代末には人口の8割以上が農村に住んでいたが、今では人口の半数以上が都市に住む。都市部では古い住宅が次々と取りこわされて、高層のアパート群が建設されている。とくにペキン(北京)やシャンハイ(上海)では、オリンピックや万国博覧会などの開催をきっかけに地下鉄路線や住宅団地が整備され、街のようすが一変した。都市間を結ぶ高速鉄道の整備も進められており、その総延長は日本の新幹線網を大きく上まわっている。^⑤

都市の環境問題

都市の発展は人々の生活を豊かにした一方で、新たな課題を引き起こした。過熱する不動産投資と無計画な都市開発によって、空き家が急増し、ゴーストタウンが中国各地でみられるようになった。また、エネルギーの8割近くを石炭に依存しており、一部の工場が硫黄分を十分に取り除く処理を行わずに排気していることから、^⑥ 大気汚染の被害も深刻になっている。近年、^{p.90} 都市部では細かい粒子状の物質(PM2.5)が大気中に滞留するようになり、視界が悪くなったり、ぜんそくなどの健康被害をもたらしたりしている。中国内陸部の砂漠化が原因で発生する^⑦ 黄砂と、^{p.43} 増加する工場や自動車からの排ガスが原因とされるPM2.5は、海を越えて日本にも飛来しており、この問題の解決に向けて、日中両国が協力して取り組んでいる。



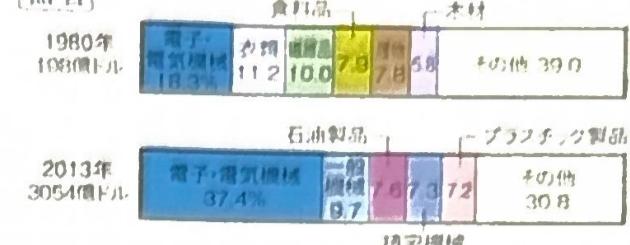
▲④ 都市と農村の人口比率の推移(中国統計年鑑2017)
図解 都市と農村の人口比率はどのように変化しているだろうか。

●台湾の発展

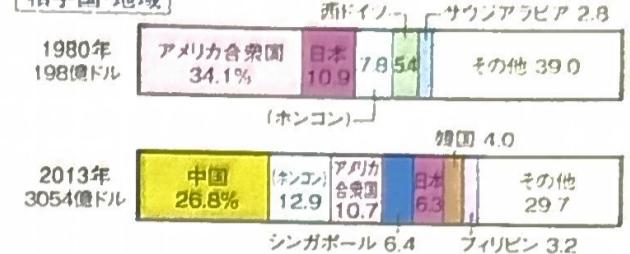
第二次世界大戦後、中国国内の内戦をきっかけとして、台湾では中国本土とは異なる資本主義のしくみの下で独自の国づくりが進められてきた。しかし、中国は台湾の独立を認めておらず、現在も対立が続いている。

1960年代から安価な労働力を生かした軽工業品や電子製品の輸出で、台湾は急速な経済発展をとげた。台湾の企業は、パソコン・集積回路(IC)・液晶パネルなどの製造分野で世界有数の実力をもっている。近年は、より生産コストの低い中国本土に工場を活発に移転しており、台湾と中国本土との経済的な結びつきが強まっている。また、台湾と中国本土を直接結ぶ航空便が運航されるなど関係の好転もみられる。

[品目]



[相手国・地域]



▲⑤ 輸出の変化(Bureau of Foreign Trade 資料、ほか)



地域を見る目

地域格差と人口の移動

外国企業の投資が沿海部に集中したことによって、

中国の工業は沿海部を中心に発展してきた。沿海部

と内陸部との経済発展の格差は大きく、それは生活水準の違いとなつて表れている。^❶農村では、多くの農家が狭い耕地しかもっておらず、農業だけで豊かになることは難しい。そのため内陸部の農村では、働き盛りの世代が、沿海部の都市の工場や工事現場などに出稼ぎに出て、農村には高齢者と子供たちだけが残されることも多い。

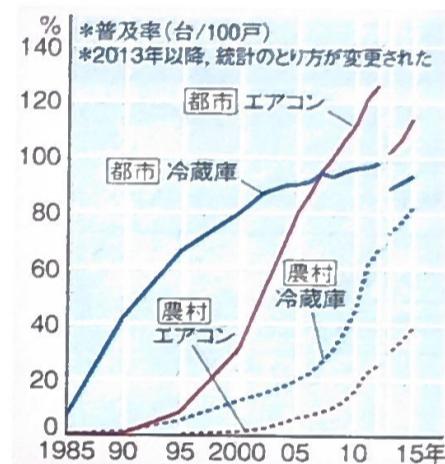
一部の大都市では、農村からの出稼ぎ労働者が都市に定住することを戸籍制度^❷によって制限してきた。出稼ぎ労働者の子供たちは、
都市では高額の学費を支払わなければ学校に入学できないことも多く、やむなく農村に子供たちを残して働く人もいる。現在は、所得格差の是正や内需の拡大をめざして、農村から都市への移住制限を緩和する動きもみられる。

内陸部の開発

沿海部と内陸部の格差を解消するために、2000年

には西部大開発の方針がうち出された。スチョワン

(四川)省をはじめ12の省・市・自治区が西部に指定され、その総面積は中国全体の7割以上に及ぶ。それ以来、西部では鉄道、道路、工業団地などがさかんに整備されるようになり、チンハイ(青海)省とチベット(西藏)自治区を結ぶ鉄道などの大プロジェクトも実現した。シンチヤンウイグル(新疆維吾爾)自治区の豊富な天然ガスをパイプラインで沿海部に輸送する計画や、内モンゴル(内蒙古)自治区での大規模な風力発電所の建設なども進められている。近年は、沿海部での出稼ぎ労働者の減少や、賃金の高騰などにより、労働力の豊富な場所を求めて内陸部に工場を移す企業も現れている。



▲⑥ 都市と農村の家電の普及率の推移(中国情報ハンドブック2017、ほか)

用語解説

① 戸籍制度 中国の人々は生まれながらに農業戸籍・非農業戸籍のいずれかに定められている。農業戸籍をもつ人は農地の割りあてを受けることができるが、都市に定住することには制約がある。

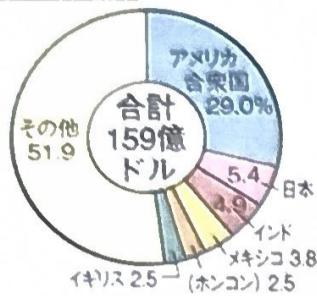
✓ チェック

- 「世界の工場」とよばれる理由を説明しよう。
- 工業の発展は、都市と農村にどのような変化をもたらしただろうか。

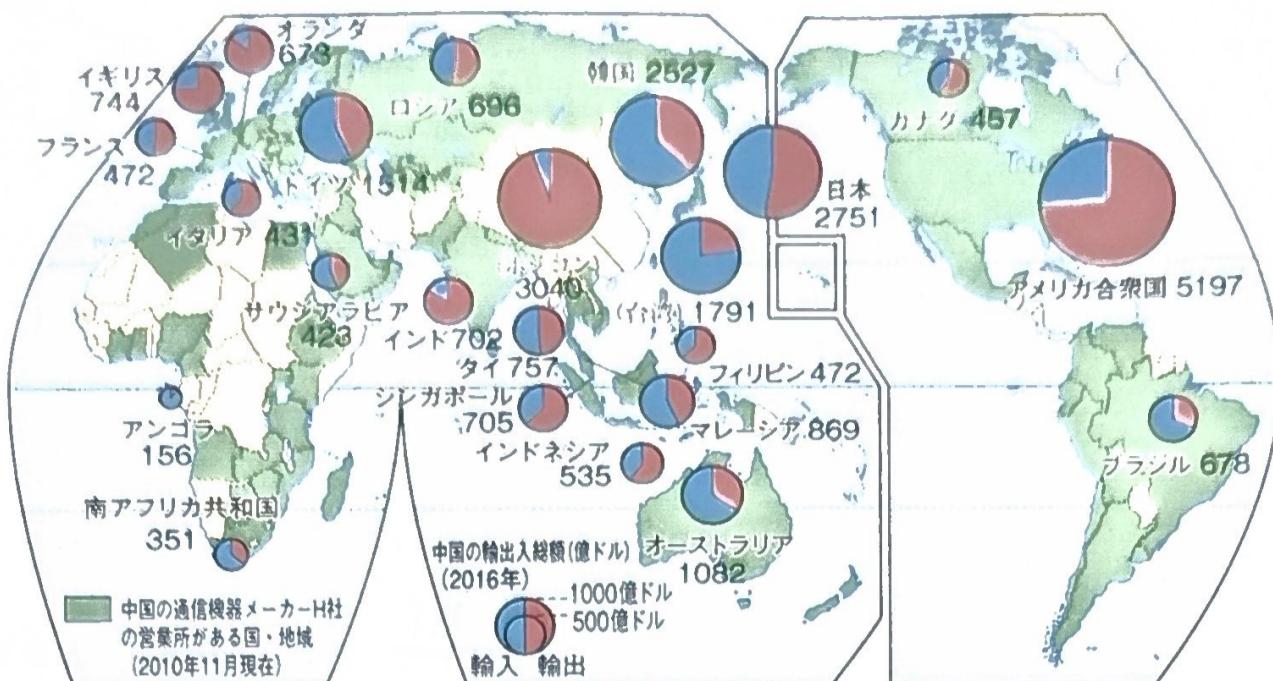
パソコン



カラーテレビ



▲① 中国の電機製品の輸出先
(2016年) (UN Comtrade)



▲② 中国の貿易相手先(中国統計年鑑 2017, ほか) 読図 中国との貿易額が大きな国や地域はどこだろうか。輸出額・輸入額の違いも読み取ろう。

リード

図①や図②からは中国の貿易相手や規模がわかる。中国の海外進出の動きをみていく。

リンク→

国際的な人口移動 (p.170)

4 中国の海外進出

世界に広がる 中国系住民

中国では、17世紀ごろから東南アジアに移住する人々が現れ、19世紀にはアメリカ西海岸やハワイへ渡り労働者として働く人が増えた。対外開放政策が始まって以降も、チョーチヤン(浙江)省などからヨーロッパやアフリカに多数の商人が渡り、各地で商業を営んでいる。こうした華僑や華人には経済的に成功をおさめた人が多く、東南アジアでは政治的・社会的な影響力をもつ中国系住民も少なくない。彼らは移住先に定着しながらも中国的な生活様式を維持し、中国とのつながりを保ち、中国企業の海外進出においても重要な役割を果たしている。

中国の 海外進出

経済成長によって巨大な市場となった中国では、鉱

産資源やエネルギー資源、食料品など、さまざまな物

に対する需要が高まり、その影響は世界各地に及んでいる。例えば、南アメリカでは鉄鉱石や大豆、アフリカでは石油や鉱産資源の中国向け輸出で経済が活気づいている。その一方で、近年は中国企業の海外進出も進められている。自動車や電気機器のメーカーを中心に、製品を販売する国に工場を建設し、現地で生産を行う中国企業が増加している。また、アフリカの油田やオーストラリアの鉄鉱山の開発に対して投資を行う企業もみられる。中国企業が海外に進出する

背景には、輸出超過によって生じる各国との貿易摩擦の問題や増大する国内の資源需要などの要因がある。中国政府はアフリカへの援助の拡大とともに東南アジアなどとのFTAの締結を進めており、中国企業の海外進出がよりいっそう増加すると見込まれている。

チェック

中国の経済成長は、世界にどのような影響を与えているだろうか。